

2021 年度 事業計画書

学校法人 大同学園

1. はじめに

18歳人口の減少に伴い、学生募集環境は厳しさを増す一方であり、それと同時に社会構造の変化や価値観の多様化が進み、高等教育機関として私立大学が果たすべき役割は、年々、高度化、複雑化し、私立大学を取り巻く環境は刻々と変化しています。さらに、昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、教育の在り方に関する社会的関心は一層高まりました。

このような環境下において、学校法人大同学園は、「建学の精神に立ち返り、再構築する。」という基本方針のもと、2020年度から2024年度までの5年間で第1期中期計画アクションプランとして、社会で活躍する人材を輩出する大学・高校を目指した変革に着手しております。

第1期中期計画がスタートした2020年度には、2030年に向けた行動指針 DAIDO VISION 2030「自分が変わる、未来を変える。」を策定し、大同大学の目指すべき方向性を示しました。第1期中期計画の2年目となる2021年度は、各事業を具現化するとともに、それらを確実に実行していく重要な1年と位置づけています。

教育の質の向上、学修支援、キャリア支援、学生生活環境の整備・支援、産学連携、地域連携、教員マネジメントシステムの確立を中心に推進してまいります。

一方、私立高等学校を取り巻く環境についても、大学と同様に大きく変化しています。各校では、入学者確保に向けた諸施策が行われており、学校間の競争が激化しています。私立学校においては、生徒の学びの意欲を高める取組を行いながら、教育の質を高めていくとともに、外部環境の変化に応じて学校改革を推進し、自校の存在を高めていく必要があります。

このような中、大同大学大同高等学校においては、2022年度より施行される新学習指導要領に対応した教育課程の変更や授業・指導方法の改善を進めます。さらに、将来計画ワーキンググループを設置し、「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けた授業改革、次世代の大同生像を見据えた校則の見直し、維持継続に留まらない募集計画の検討を進めます。

2. 事業計画

【新型コロナウイルスへの対応について】

本学では、「大同学園新型コロナウイルス感染症対策基本方針」を策定し、これに基づき、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、迅速かつ的確な対応を行っています。

2021年度においても、基本方針に基づき、感染症拡大防止対策に取り組むとともに、学生、生徒、教職員の安全確保を第一に必要な措置が講じられる体制を構築します。対応が求められる様々な事象に対して、時期を逸することなく意思決定を行うとともに学内構成員及びステークホルダーへ決定事項を周知徹底することで、感染拡大防止を図ります。

◆対面授業とオンライン授業の実施

大学では、感染拡大防止のため、2020年度の前期はすべての授業をオンラインで実施しました。後期からは、基本方針として実習・演習系科目は対面式にて、講義系科目については前期に引き続きオンライン授業にて実施する併用式で授業を実施し、学生の学修機会の確保に努めました。

2021年度においては、学生のキャンパスでの学びを重視し、感染防止対策を十分に講じたうえで、対面授業を実施する予定です。一方、一部の講義系の授業については、感染拡大防止のため、引き続きオンライン授業となる科目もあります。オンライン授業については、その質向上を図る取組等を講じ、大学での教育に効果的に取り入れていく予定です。

高校では、2020年度においても基本方針として感染防止対策を十分に講じたうえで、教室での授業運営に努めました。なお、昨年7月より全校生徒にiPadを配布したことによって、自宅学習期間においても、生徒及び教員間でスムーズな学習指導が実現できました。2021年度においても基本方針は変えることなく、ICT機器の更なる有効活用を進めることで、生徒の学びの意欲促進に努めます。

【中期計画の推進について】

< I 法人本部 管理・財務専門部会 >

①組織・運営WG「管理・運営・人事」

現状の人事制度における課題を整理し、人的資源の有効活用および事務組織機能強化に向けて、評価制度、職員の多様な働き方の検討を進めると共に、SDによる職員の資質向上に努めます。

②組織・運営WG「施設設備・IT環境整備」

[施設設備]

X棟の本格稼働に伴い、白水校舎の解体を速やかに進めるとともに、大学における既存校舎の補修工事についても修繕計画に基づき進めてまいります。

大同高等学校の老朽化した施設の更新について、具体的な更新計画の作成について検討を進めます。

[IT環境整備]

学内におけるWi-Fi適用範囲の拡大を図り、ネットワーク環境をさらに整備することで、さらなるICTの活用を推進します。また将来を見据えたネットワーク基盤を構築するために、ITグランドデザイン計画の作成を進めます。

③組織・運営WG「後援会・PTA等・地域連携」

保護者組織である後援会と大学が共催して実施する教育懇談会を2021年度においても開催します。さらには、後援会HPにおける情報発信の充実を図り、連携強化に努めます。

後援会には在学生の学習環境の整備や課外活動の運営等に積極的な支援・協力を継続的に得ており、引き続き連携し、これらの諸事業に取り組みます。

卒業生組織である同窓会と大学の連携強化を図り、卒業生の帰属意識の醸成に努めると共に、後援会も含めた三者の連携強化策について検討を進めます。

④防災・危機管理WG「ガバナンス強化」

文部科学省より、ガバナンス強化を狙いとする学校法人制度の見直しの中で、上場企業が守るべき行動規範の指針を示したコーポレート・ガバナンスコードに準じ、私学団体等に私立大学版ガバナンス・コードの策定が求められました。これを受け、本学においても大同大学ガバナンス・コードを策定し、ガバナンスの強化に努めます。策定後は、私立大学にガバナンス・コードの策定が求められている背景を全学にて共有し、ガバナンス・コードを遵守してまいります。

⑤防災・危機管理WG「リスクマネジメント」

新型コロナウイルス感染症の拡大は、授業運営においてはもちろん、学園経営の面においても、これまでの我々の想定を超える大きな影響を及ぼしています。このような前例のない事象が発生したことを機に、現状のリスクマネジメントの問題を再度整理し、既成のリスクマップの見直しを進めると同時に、リスクマップに基づく危機管理体制の構築を進めます。

⑥財務戦略WG「財政」

教育の質向上をはじめ、各事業が中期計画を遂行していくうえで必要な資源を確保し、財政的な支援を行うために、投資案件の適正な選定方法を検討し、投資結果の評価と検証を進めます。

また、学園の健全経営のためには収入の安定確保の継続が不可欠であり、支出を抑制するとともに、補助金の獲得に向けて、検討を進めます。

< II 大学 教学専門部会 >

⑦入試広報戦略WG「学生確保」

2020年度に策定した DAIDO VISION 2030「自分が変わる、未来を変える。」を学内外に広く浸透させるとともに、大学案内、ホームページの見直しを図ります。

また、入口と出口の連携を強化し、高校生、企業など、各ステークホルダーに対して有効的な広報媒体作成に向けて、見直しを図ります。

広報活動および高大連携の強化として、出張授業の推進を図ります。

さらに、動画やSNS、スマートフォン向けアプリなど、多様なデジタルメディアの活用による広報展開を強化すると同時に、学生目線での広報発信を推進するべく、学生広報チームの育成を進めます。

適正な入学定員の確保に努めるとともに、各種データを用いた現状分析を継続し、試験種別毎の入学者計画数や入試日程など、入試制度見直しの検討も進めます。

⑧教育WG「教育（大学・大学院）」

（学部）

教学マネジメントと連動し、2024 カリキュラムの改正に向けて、専門教育と教養教育の役割分担とその接続について検討を進めるとともに、全学共通科目群の設置の検討など、学位プログラムの見直しを進めます。

（大学院）

2020 年度より取り組んでいる大学院の魅力化推進について、2021 年度も継続し、各専攻の進捗状況および改善状況の共有を通じて、優れた事例については他専攻への水平展開を検討し、大学院の魅力化、教育内容の改善を進めます。

⑨学生支援WG「学生生活」

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、心に不安を抱える学生が増えている現状を鑑み、カウンセラーと指導教員の連携体制の構築をはじめ、要支援学生に対する支援体制の強化を進めます。

⑩学生支援WG「学修支援・授業支援」

入学前教育を受講した学生を中心に、基礎学力に不安を抱える学生に対して、積極的に学修支援センターへの誘導を図り、要学修支援学生に対する支援体制の強化を進めます。

2020 年度より学科・専攻において教育制度上、内容・方法、指導上の視点から学修成果の点検・評価の分析が開始されました。2 年目となる 2021 年度は、DP 達成状況に基づく学修評価の在り方を検証し、教育改善の支援を進めます。

⑪学生支援WG「キャリア支援」

学生が高い学修意欲と目的意識を持ち、自身のキャリアビジョンを描けるような支援を低年次より実施すべく、1 年生を対象とした社会人基礎力の測定を実施します。また、近年、多くの企業において重要視されている、就職の第一関門である「筆記試験」対策、「SPI 試験」対策として、対策講座を開講し、受講を促進することで、初期選考の通過に向けた支援を行います。

⑫地域・連携WG「研究・地域連携・産学連携」

持続的な地域連携のための体制と制度の整備、地域や産業における特徴や強みを踏まえた研究領域の選定と推進など、地域連携・研究センター（仮称）を設置するために、地域連携・研究センター（仮称）設置検討WGにて検討を進めます。

⑬教学マネジメントWG

2024 年カリキュラムの改正に向けて、DAIDO VISION 2030 に基づき、将来像を踏まえた大学の教育目的を検討し、各学科・専攻の 3 ポリシーの見直しを進めます。

<Ⅲ 高校 教育専門部会>

中期計画における基準項目である、⑭生徒確保、⑮教育、⑯進路、⑰校務運営の4項目の推進を目的として、将来計画WGを設置します。さらに、検討項目が多岐に渡るため、将来計画WGの下に、項目毎にサブワーキング（SWG）を設置し、検討を進めます。

特に、2022年度から、高等学校において新たな学習指導要領が施行されることに伴い、全ての教科で主体的・対話的な深い学びの実現に向けて教育課程の変更やICT機器を有効的に活用するなど、授業・指導方法の改善を進めます。

<Ⅳ 中期計画戦略WG>

⑱高大社の連携

[大学と企業の連携]

学生の就職に対する意識の早期育成および職業観の醸成および卒業生との関係性強化を目的として、昨年度に引き続き本学卒業生による2、3年生に向けた、講演会形式の業界研究会を実施します。この業界研究会には卒業生の在籍する企業の人事担当者もお招きし、企業との関係性も強化してまいります。

企業における本学卒業生の評価、また、併せて卒業生の就職後の動向を調査する調査方法について検討を進め、時代の変化に対応したキャリア教育の見直しを図ります。

[大学と高校の連携]

併設校としての優位性を活かすため、「高大連携探究学習」の講義内容、履修時期、講義方式の変更について検討および改善を進め、教育面での相互連携をさらに深めることで円滑な高大接続を図ります。

⑲多様化の推進

委託学生をはじめとする社会人学生の受入れ、リカレント教育、グローバル人材の育成、障害のある学生への支援など、多様な学生の受入れおよび育成について、他のWGと連携して検討を進めます。

⑳働き方改革

外部コンサルタントを交えた働き方改革検討WGにおいて、教職員の長時間労働の是正と働きがいのある職場づくりに向け、具体的な改革案の検討を進めます。